

専大北上ニュース

専修大学北上高等学校
TEL 0197-63-2341
http://www.senshu-u-kitakami.ed.jp

メディア委員長・高山朝加
メディア委員会担当
吉田俊哉・佐々木文弥・佐藤 諒

高大接続研究事業特別講義「総合科目」7月13日(水) 石巻専修大学経営学部 情報マネジメント学科 湊信吾教授 「実践データサイエンス」



令和4年度高大連携事業「総合科目」第6回目の授業は7月13日(水)本校がリレーションホールで「実践データサイエンス」と題して石巻専修大学経営学部情報マネジメント学科の湊信吾教授から講義をいただきました。



まず最初にコンピュータリテラシーという言葉について触れました。リテラシーというのは運用能力と訳されます。湊信吾教授はコンピュータリテラシーは読み書き算盤のようにコンピュータを使いこなすことと説明されました。近年

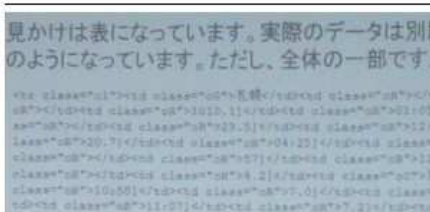
スマートフォンの普及により、日常的にコンピュータに触れる機会が増えました。その分若い世代はキーボードの扱いに慣れていないそうです。プログラムの言語は英語や記号が多く使われる、特に記号の入力に慣れるためにキーボードでの入力作業に慣れていただく良い方法として、

次に「自身がコンピュータになったつもりで」必要なデータを取り出すの予測を行う①分類するという演習を行いました。生徒は慣れない作業ながらも自ら考え、時には周りと協力したり時間を測って湊信吾教授に問いたりしながら演習に取り組みしていました。



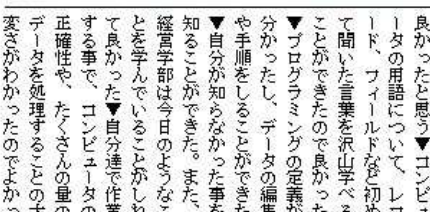
最後に、情報マネジメント学科の紹介で今回の授業を締めくくりました。情報マネジメント学科で学ぶことは「将来の仕事に備え、物事を具体的にこなせること」。学生一人ひとりがコンピュータを必須で、その代わり必ずコンピュータを使えるようにする授業を行っています。経営学部なので、経営の知識も同時に学び、DX(デジタルトランスフォー

メーション)にも対応できる人材を育てています。湊信吾教授は最後に、「人に説明するには自分も体験することが一番」と生徒に伝えました。



▼どのような手順ではやくにコンピュータは作業を終らせてしまおうかという目的で、図を早くの作業が楽しかった▼コンピュータになり作業を実際に行うことができたこと▼ただ話しているだけではなかなか実際に書いて学べたので、理解しやすかった▼大事なポイントを先生が一丁二丁丁寧に説明してくれてわかりやすかったです▼自分でコンピュータを使えない人の1人なので、知らなかったことを知るだけでも良かった▼データの中から必要なものだけを取り出し、そこから測る事ができてデータの分類ができたこと▼今までのパソコンの使い方のイメージと違って、不要なものを削除するという点に着目できていなかった▼新しい発見が沢山あり聞いていてとても興味がありました。とみんなパソコンも使えるようになった▼

うになりたいです▼コンピュータの有能さかわかった▼機械学習を応用したソフトウェアが指板や昔のチャットボットに勝つのは面白いと思った▼最初は全然分からない話だったけれど、実践を通してだんだん理解することができるようになった▼プログラミンクの方や講師の先生が回って教えてくださったおかげでわかりやすかった実際に自分たちで作業したところが良かった▼言葉ではなかなか多量かつたコンピュータの使い方で「」の意味も方や英語を使うというのを知れたのでよかった▼データを簡単にグラフに書き出す一つの方法を知ることが出来た▼記号や文字、数字などを駆使してデータを表すことを実際にやって仕組みについて知るのだから



たこと▼実際にデータを取って見るとデータサイエンスがどのようなかわかることが出来たこと▼自分がコンピュータになったつもりで手作業で必要なデータを取り出すのが分類するのができたこと▼大学では統計学も学んで思っているが、これを実際にやるのは限らないが、触れることが出来た良かった▼実際にデータサイエンスについて問題を解いて、体験できて良かったと思う▼コンピュータの用語について、レコード、フィールドなど初めに聞いた言葉を浪山学べるのができたので良かった▼プログラミンクの定義が分かったし、データの編集や手順をすることができた▼自分が知らなかった事を知ることができた。また、経営学部は今日のようなことを学んでいることがわかって良かった▼自分達で作業する事で、コンピュータの正確性や、たくさん量のデータを処理するのどの大変さがわかったのだった

た▼コンピュータを使ってデータをまとめる時は色々な操作があったり、消したり付け加えたりするのがあるって社会でデータ処理をする時には大切なことだと思った▼情報処理について知ることができた。今回の講義を通して私は、コンピュータ機種の発展、AIの学習能力は凄まじくすごいものだと思う▼一方、未来社会の担い手である私たちからすると下手すれば自分自身が希望した職業にAIが導入され、職を手でできない人が出てくるのではないかと考え、複雑な気持ちになった。が、とてつもない勉強になった▼コンピュータで行っている処理を自分の力でやってみることで、コンピュータの技術を



実践することが出来た。



専大北上ニュース

専修大学北上高等学校
TEL 0197-63-2341
http://www.senshu-u-kitakami.ed.jp

メディア委員長・高山萌加
メディア委員会担当
吉田俊哉・佐々木文弥・佐藤 諒

全国珠算学校連盟主催の暗算段位検定試験 吉川咲来さん〔普通科・アクティブラーニング(AL)コース〕 (江釣子中出身)が暗算10段に見事合格し悲願達成



5月22日に実施された全国珠算学校連盟主催の暗算段位検定試験の最高位昇段である10段に吉川咲来さん〔普通科・AL(アクティブラーニング)コース〕(江釣子中出身)が見事合格し悲願を達成しました。おめでとうございます。

【暗算10段の問題数と時間】
10段は掛け暗算、割の暗算が60題ずつ、見取暗算が30題ずつ、それぞれ制限時間4分、各300点満点。
Q暗算10段に合格するには、どれくらいの問題をどのくらいのスピードで解くのか。

A【かけ算の場合】
2桁×2桁→4桁×4桁
(例) 87×34(2秒)
614×800(5秒)
8435×5700(10秒)
456789×987654(15秒)の計算を瞬時に頭の中で処理できるのが暗算10段。

よいはじめの会館とともに始動する無駄のない繊細な所作。問題を見つめる真剣な眼差しと、とろとろと書き進められる姿や人の数字。何千回・何万回も繰り返した動き。また計算しているだけなのに知らず知らずの感動。それが10段です。

「10段合格おめでとう」おめでとう。一族の協力、仲間存在、競い合ったライバル、そして所属している第一珠算学校江釣子教室の谷地敬達也競技部長(先生)の励ましと、「ご指導のおかげ」と吉川咲来さんは喜びと感謝の言葉を述べていました。
あらためまして、全国珠算学校連盟主催の暗算段位検定試験の最高位昇段である10段合格おめでとうを申し上げます。



専大北上ニュース

専修大学北上高等学校
TEL 0197-63-2341
http://www.senshu-u-kitakami.ed.jp

メディア委員長: 高山萌加
メディア委員会担当
吉田俊哉・佐々木文弥・佐藤 諒

7月9日(土)本校クリエーションホールで15時から 3年ぶりに令和4年度同窓会「定期総会」開催される



開会のことば
小笠原達也さん
(昭和58年普通科卒)



理事長挨拶
宮岡孝之理事長



学校長挨拶
阿部 伸校長



同窓会長挨拶
佐藤 惣さん
(昭和57年自動車科卒)



閉会のことば
村上光太郎さん
(昭和52年普通科卒)



寄付について説明する
千葉一輝課長補佐



校舎建築概要を説明する
木村純常務理事



定期総会議長を務めた
菊池秀成さん
(昭和60年普通科卒)



建設工事を予定を説明する
高橋直樹事務局課長



令和4年度四国で開催されるインターハイに出場する男子卓球部と体操部陣に各支部(専北会)から
激励金が贈呈されました。インターハイでの活躍を期待しています。



前同窓会長の高橋勝様へ
同窓会を代表して佐藤惣同窓会長から
感謝状と記念品が贈呈されました